

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	子ども医療費助成事業			会計	款	項目	大事	小事
政策	O4	4節	誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	子ども家庭課			
施策	4-1	安心して子どもが健やかに生まれ育つ環境づくり		主管課長	熊井 彰			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	中学校修了前の子ども	意図	子どもの保健対策の充実及び経済的負担の軽減を図り、子どもの保健の向上及び子育て支援の充実に寄与する。
事業内容	子どもの医療に要する費用を負担する保護者に対し、その費用の全部又は一部を助成する。 助成方法：受給券による現物給付又は償還払い			
事業開始から現在までの状況変化	子ども医療費助成は、平成21年8月から毎年助成対象年齢を引き上げて拡大し、平成26年12月に中学校3年生まで拡大した。また、平成23年8月から所得制限を廃止し、自己負担金300円を200円に引き下げた。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	子ども医療費支給件数（償還払い）	7,067	7,679	7,669	件	↑↑↑
②	子ども医療費支給件数（現物給付）	400,736	417,348	443,387	件	↑↑↑	現年度/前年度
③							
④							
⑤							
⑥							

指標で表すことができない定性的な成果				目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 平成24年12月から入院費に係る助成が中学校3年生まで、平成25年12月から通院費に係る助成が小学校6年生まで拡大し、さらに平成26年12月から中学校3年生までの拡大したことにより、現物給付、償還払いの件数が増加し、助成に係る事業費は毎年増加しており、今後さらなる事業費、事務量の増額が見込まれる。			
事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)	767,773,137	793,031,945	821,649,384				
事業費(b)(円)	749,402,657	774,998,065	810,974,384				
うち一般財源	520,628,657	540,171,065	565,987,384				
職員給与費(c)(円)	18,370,480	18,033,880	10,675,000				
人役・職員(人)	2.20	2.20	1.00				
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)	2.92	2.92	3.00				
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	B 削減の余地がややある
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	子ども医療費助成規則に定められた事務処理の範囲内で事務改善を行う。	③取組における課題(Check)	書類量は減らないので、今後も細かいところから改善したい。その他医療費の増加に伴う財源確保。償還払いによる支給事務の煩雑化。
②H30に実施した取組(Do)	審査機関に送付する書類のシステム入力タイミングを変更し、事務の整合性向上を図った。	④課題に対する今後(H31~)の改善計画(Action)	医療費の増加、受給者の増加に対処するため、事務体制を整え、適宜改善を行う。